

学長補佐室及び教学改革のためのタスクフォースの 設置及び運営等に関する要綱

平成27年4月1日
学長裁定

平成25年4月1日から設置されている学長補佐室及び平成26年4月1日から設置されている教学改革のためのタスクフォースについて、目的、任務、運営等に関し、以下のとおり定める。

I 学長補佐室

(目的)

学長のリーダーシップによる全学的なマネジメントとガバナンス体制を強化し、全学的な改革を的確に進めるためには、学長補佐が任務を十分に遂行できるようにする必要がある。そのため、各学部や各委員会との連絡調整を図りつつ、大学全体としての改革を、横断的、総合的、体系的に進めるため、学長の指示の下、学長補佐とともに機動的な活動を行う組織として、学長補佐室を置く。

(任務と運営)

- 1 学長の統括の下、次の事業を行う。
 - ① 全学的な改革のための基本方針の確立
 - ② 自己点検・評価報告書のとりまとめ
 - ③ 地域貢献センター等の行う地域との連携事業等の推進
 - ④ 高等学校との連携・接続に関する事業の推進
 - ⑤ その他の全学的に取り組むべき事業の推進
- 2 学長補佐室のメンバーは、学長が指名する。

II 教学改革のためのタスクフォースの設置

(目的)

全学的な教学マネジメントを的確に推進し、教学改革の実を上げるため、学長の下に「教学改革のためのタスクフォース」を設置し、全学的なPDCAサイクルを確立する。

(必要性)

本学は、「大学改革実行プラン」及び「学士課程教育の質的転換」等を踏まえて、カリキュラム改革、地域貢献、授業改善、教育理念の具体化、地域貢献センターと学生支援センターの新設など多面的な教育改革を進めてきた。

達成すべき課題としては、基礎スタンダード科目の全学的運営体制・授業内容の充実、基礎スタンダード科目に整合的に連結する専門カリキュラムの構築、地域貢献科目の拡大及び実践内容の充実、学生のアクティブ・ラーニングを促す授業設

計・教授法の研究等が挙げられる。このような全学横断的な課題に対処するためには、学長の指導・監督の下にタスクフォースを置いて、全学的な方針を明確にし、教務委員会、FD委員会、学習支援センター、地域貢献センター等が連携協力していくことが最も有効である。

(タスクフォースの任務と運営)

1. 教学改革のためのタスクフォースは、中長期、短期の課題に対し、関係委員会等と連携を図り、大学として必要な方針を示す。
2. 教学改革のためのタスクフォースは、学長が統括する。
3. 教学改革のためのタスクフォースのメンバーは学長が指名する。
4. 効率的な運営を行い、教学改革のPDCAサイクルを確立する。
5. 次回の認証評価取得へ向けて必要な教育改革を推進する。

(主な事業内容)

1. 基礎スタンダード科目の全学的運営体制・授業内容の充実
2. 基礎スタンダード科目に整合的に連結する専門カリキュラムの構築
3. 地域貢献科目の拡大及び実践内容の充実
4. 学生のアクティブ・ラーニングを促す授業設計・教授法の研究
5. 平成27年度以降の全学共通専門科目の開設及び運営体制の確立
6. その他のカリキュラム改革、FD改革、評価の改革等に関する全学的な教学改革の方針の確立

施行：平成27年4月1日